

ぴっぴだより

No.4 2020. 7. 1

4月から月1回始まった「芸術の時間」。子ども達と森の中で芸術に触れる…そんな時間をもてることにワクワクしています。私がこの活動を始めたきっかけと、思いを少しお話ししたいと思います。4月から月1回始まった「芸術の時間」。子ども達と森の中で芸術に触れる…そんな時間をもてることにワクワクしています。私がこの活動を始めたきっかけと、思いを少しお話ししたいと思います。

2001年5月。私はスペイン・マドリードのソフィア芸術センターにいました。その頃私は、美術史を学んだ大学を卒業して短期でイタリアに滞在しながら、ヨーロッパの様々な美術館を巡っていました。どこの美術館へ行っても、中高生や小学生、時にはまだよちよち歩きの子供達が学校の授業やお散歩として美術館を訪れていたことに驚きました。先生や美術館職員の話聞きながら子ども達が自由闊達に意見を交わしていたことにも感心しました。こんなことが日本でも当たり前になったらいいのに…と思ったのを覚えています。

ソフィア芸術センターで現代美術を見ていた私は、母親と来ていた4・5歳の女の子が小さなノートと色鉛筆を持って、ミロの絵の前にタタタッと駆け寄っていく姿を目にしました。それは黒いニョロニョロの線と赤い3つの点々のある抽象画でした。女の子はその絵の前に立つと嬉しそうにミロの絵と同じように黒いニョロニョロと赤い点を3つ自分のノートに描きました。その女の子の全身から「この絵が気に入ったの!」という思いが伝わってきました。彼女には、この絵がどんな絵で誰が描いたか…なんていう知識はないのでしょうか。いえ、そんな知識がないからこそココロで感じたままの行動なのかもしれません。幼い頃ワクワクしながら芸術に触れた経験は、ゆっくりとでも着実に広がる波紋のように彼女のその先の人生に一つの経験として残るのだらうと思いました。

そんな私がぴっぴで「芸術の時間」を持たせてもらい、3ヶ月が経ちます。子ども達とはいわゆる“名画”を鑑賞しますが、作者や作品名などの情報や知識は伝えません。この時間で大事にしたいと思っている事。それは、

- ①「じっくりみる事」
- ②「感じて考える事」
- ③「言葉にして伝えてみる事」
- ④「他の人の意見や感じ方を知る事」です。



目まぐるしく過ぎ去る日常の中で何かをじっくりみる時間は今の子ども達(もちろん、私達大人も!)にはほとんどないのではないのでしょうか。たくさん刺激を受け、駆け回って過ごす時間も子どもにとって大事な経験ですが、多くの情報が目まぐるしく行き来する現代だからこそ、ちょっと立ち止まって一つのものにじっくり向き合うことで、「感じたり考えたりする事」ができるのではないかと思います。

さらにその「感じたり考えたりした事」を「言葉で誰かに伝える」。それもこの活動で経験できたらいい…と思っています。ただ、この部分は苦手…という子ども達もいると思います。思いを言葉で表現する事自体が苦手だったり、みんなの前で発表する事が恥ずかしかったり。そんな子ども達も、発言はなくてもじっと絵を見たり他の子の発表を聞いたりした後、こっそり私に思った事を伝えてきてくれたりします。頭の中でクルクルと色々な思いが駆け巡っていて、自分なりの考えが浮かんだり、お友達の発言から更に世界が広がったりしているのだらうな…。だから芸術の時間では「みんなの前で発表したくない人はしなくてもいいよ」と伝えていきます。

それから、子ども達に毎回伝えているのは、人によって見え方や感じ方は違うから「間違っている」ということはいんだよということです。だから、毎回一人の意見からまた違う意見が出てきても、「あーそうかもねえ」「そんな風にもみえるねえ」とお互いの意見を面白いと思いい、そこから新たな見方が生まれたりします。「他の人の意見を聞く」経験が自分とは違う見方や感じ方を知る事になり、互いの意見を尊重し合えることに繋がってくれたら。そう考えています。

子ども達と対話していて、毎回驚かされるのがその観察力・想像力です。「空が青いから晴れだと思う」「赤いところもあるから夕方かも…」と自分の持っている知識から推測したり、「雲がノコギリザメに見える」「お船の形みたい」と自分の好きなものに結びつけたり。そんな風な見方があるのか!よくそんな所に気づいたねえ!とうなづくことばかり。凝り固まった大人の頭を柔軟な子ども達の発見・発想がほぐしてくれます。ぴっぴの森の木漏れ日の中、時には雨粒の音を聞きながらの開放的な雰囲気もまた、子ども達の自然な発言に繋がるのでしょうか。私も子ども達に負けないように柔軟な発想で、子ども達が楽しく芸術に触れられる時間を工夫しながら一年を通して活動していきたいと思っています!

峰岸麻奈(ねぎ)

にじみ絵の絵本「2019年 くり ぼくのき わたしのき」が届きました。
 本当に嬉しくて何度も何度も何度も見返してしまいました。

園歌「ぼくのき わたしのき」はびっぴの森や子ども達の顔を思い起こしながら作った僕にとっても大切な曲です。
 曲は詩と旋律のコラボレーションですが、この絵本は詩と絵のコラボレーション。
 言葉って生き物ですね～！
 命を持ち、時間を超えて他の表現に結びつく。
 生みの親としてはこんなに嬉しいことはないです。
 生みの親と言うのはちょっとおこがましいかもしれませんが。
 「ぼくのき わたしのき」は当時のスタッフの皆さん、そして「びっぴにある全て」が作りあげた曲だと思っています。

森は休むことなく無数の命を循環させています。
 僕ら人間もその循環の恩恵を受けていることを深く意識することが大事だと思っています。
 その循環に身を委ね、自分がすべてとつながっていると感じることはとても大事だと思います。
 世はコロナ。
 直接つながることが難しい状態です。
 でもびっぴの森で学び、遊んだ子ども達の心の奥には今まで養った「つながる感覚」が刻まれているはず。
 そしてスタッフの皆様や親御さんの皆様の中にも。
 どんなに離れていても心でつながっていたいものです。
 それを簡単に実現してくれるのは絵や音楽などの「心を表現した創作物」です。
 絵本「ぼくのき わたしのき」を見ていてそんなことを思いました。
 音楽家にとっては厳しい時期ですが、この絵本で生きる喜びの本質に触れることができました。
 感謝しかありません。

また皆さんと思い切り楽しい音楽ができる日を心から願っています。

オギタカ

木のみらくさ Sketchbook 7月

ストロベリー、マルベリーと
 ベリーの季節がやってきた。
 ひらひらの森にも「くまいらご」
 「ぼらいらご」「くろいらご」などの
 木苺にちがせつけます。
 甘酸、はくて、ホシで
 パクパク食べる、手がとまるはじ♪
 でも、気を付けて！ 夢中に「ひらひらの
 果実で遊ぼう」と、絵本のように
 クマさんにピッタリ会って「クマも...」
 (うらやまだけ...)
 お子さんと一緒に、どこにあるのか、
 ぜひみつけてみて下さいね！ そして、この季節に
 みられる オトシガミのかわいい
 ヲリカゴにもご注目！ : 葉の裏

浅間山や成尾山等で
 みられる黄色い木苺、その姿は森の中で
 テクテクと輝いて、クマとみられてしまえば、
 味も絶品！ みつけたらぜひ、食べてみて♪

くまいらご
 クマが食べるから
 くまいらご、と名付
 木苺、その名の
 通り、この季節、クマの主食はベリー類
 ひらひらの森の入り口、ハンモックの辺りにたくさん、
 黒と赤の「くろいらご」
 もありますよ♪

オトシガミ
 ヲリカゴにもご注目！
 葉の裏
 ひらひらの
 森の中にも
 あるイガミ。
 大きな目
 が特徴、実は
 日本固有種
 で氷河期
 時代からの
 貴重種。

甲虫は
 最大1cm

おとしガミは、
 くりやどんぐりなどの葉に、卵を産み、甲虫です。
 葉に卵を産みつけ、卵は1mm
 ほどの黄色い卵を産みつけ、その先鋒に1mm
 その卵の入り口は、葉の裏に産みつけ、卵は1mm
 森の地面には、よじよじよじと、卵を産みつけ、
 ても、道端や砂利道の上にも...
 卵を産みつけ、卵は1mm
 卵を産みつけ、卵は1mm
 卵を産みつけ、卵は1mm

今月のTeatime♪
 桑《マルベリー》茶

ひらひらの森で子どもたちが桑の葉を採る季節になりました。この桑の葉のお茶の
 効用には糖尿病の予防、整腸作用、胃
 の老化の予防、美肌効果、しみの予防
 など嬉しい効果もたくさんあります。
 果実も白髪や不眠、便秘、疲労
 などに、子どもたちに食べさせたい♪
 (食べさせたい♪)

おとしガミの
 ヲリカゴ

3cm弱

「+」んしょと火田から

😊 じゃがいも 植えに行ってきました 😊

5月に予定していたじゃがいも植え、雨で延期になっていましたが、6月3日にお陽さまの下 おおきくみのみんなで行ってきました！

朝の集まりの前、じゃがいもの種の伸びすぎた芽をとっていると、つんだ花を見せてくれたり、一緒にその作業を手伝ってくれる子が何人もいました。「どうしてこうなったの?」「たべられないの?」「なんでやるの?」おしゃべりをしながら、土の中じゃなくてもどんどん芽を伸ばそうとするじゃがいものカを感じていると、ちょうど作業を終えたところで鈴が鳴りました。

今年のじゃがいも植えは、長〜いひと畝に3列植え。軍手をはめて、スコップや手で穴を掘って小さな種いもを置きます。その時にヘソの向きをそろえるのがポイントです。

「じゃがいもの おへそを 浅間山に向けて植える」と去年の体験を覚えている子もいました。「3列植えよう」と伝えると、その数が植え終わると次の作業に向かう子、まだ種いもが残っているからと最後まで植えようとする子。ひとつの作業に関わる時間は様々。

そう、この日はじゃがいも植え、大豆の種まき、人参やラディッシュの種まきとお仕事が大盛り上がりでした。

植えたりまいたりを終えた子どもたち、「きょうはお仕事いっぱいしたよね?」ありがとう! たくさんおつかれさまでした。

お弁当を食べて、歩いて帰って。

森と同様に緑が濃くなって目を奪われる植物や虫に出会いながら、お馬さんの横を通って。

まっほろりさんは初めての火田へのお出かけでした。しっかりした足どりで大きい人たちと歩く姿に昨年とは違うたくましさを感じました。

一年前の火田からの帰り道を思い出して、くりさんおくりさんも、くりさんおくりさんになったなあと最後尾からみんなの背中を見ていました。

毎日の作業も重ねて、みんなの心を少しずつ大きくくらませてあげていくんだなあ、あんな日もこんな日も大事だったなあなんて、アタマではわかっていてもつむりのことに、実感がいま半時間でした。 いつもごめい ありがとうごめい

《 7月のお知らせ 》

びっぴ創立10周年の時に、びっぴの園歌(「ぼくの木 わたしの木」「ピッポロピッピ ポロピッピ」)を作词作曲して下さったオギタカさん(荻原崇弘さん)が原稿をお寄せくださいました。園歌は子どもたちも大好きな歌で、どんぐりさんも口ずさんでいます。何人かの保護者の方は、「ぼくの木 わたしの木」を聞くと涙が出てしまうと言われます。何回も何回も子どもたちと歌っている私も、「ぼくの木 わたしの木」は毎回心に沁み、二番の「♪風 集めたの」のところになると涙が出そうになります。ずっと大切にしたい歌です。どんぐりさんの皆さまには今回、園歌の楽譜を配布いたしました。

殊のほか、暑い日が続きプール遊びが始まりました。初め、着替え場所は散乱していましたが、次第に何を持って来て、脱いだ衣類をどうたたんで、プール後の濡れた物はどこへ入れて…子どもたちは掴めていきました。わかりやすいセットの準備をよろしく願いいたします。

お散歩にもよく出かけた6月でした。時にはみんなで一緒に、時には行きたい人たちだけで、崖登りコース、川コース、探検コース、木の実コース、お化け屋敷コース、車が通る県道コース…しっかり歩くようになったまつぼっくりさん。小さい人たちのお世話に丁寧なくりさん、おおくりさん。今年は崖を見事に登ってしまうどんぐりさんが多いです。崖登り=軍手もすっかり理解している、崖登り好きなどんぐりさんたち。熊に遭遇しないように、鈴を鳴らしセミに負けない位の声で歌い、しばらくは賑やかなお散歩になります。

おおくりさんたちの、自分の縄跳び作りもありました。長い、好みの色の布を三つ編みしながら作ります。あつという間に仕上げていきました。一年間、一人一人を応援してくれるマイ縄跳びです。

：真弓

●朝の集まり・帰りの集まり・降園時間の変更

・朝の集まりは、(火)(水)(金)は全体で行います。

・帰りの集まりは、各グループの集まりを大切にしながら、保護者の皆さまに密にならないようご配慮いただきながら、「みんなてどうぞ、お母さ〜ん」復活です。

・7/1(水)〜

どんぐりさんの降園時間 14時

おおきくみの降園時間 (水) 14時

(月)(火)(木)(金) 15時

※今しばらく、マスク着用にご協力をお願いいたします。

※ランチ時の席はもう少し、みんなが一方方向に向けるようにしておきますが、「みんなと一緒にいただきます」をします。

●ダニ 今年もマダニが確認されました。噛まれる率は高くはありませんが、藪に入り込んで遊ぶ子どもたちの身体のチェックを毎日お願いいたします。今までの例からだと、耳たぶ・まぶた・首・頭など柔らかい箇所が多いです。